

ポリオキシシン水和剤 ポリオキシシン AL 水和剤	取扱メーカー： クミカ、日農、一農、琉産 原体メーカー： 科研製薬
成分： ポリオキシシン複合体〔抗生物質〕……………10.0% （ポリオキシシン B として 100,000AmBu / g） その他 PRTR 該当成分 ポリ（オキシエチレン）=ノニルフェニルエーテル〔PRTR・1種〕…0～2% ホウ酸亜鉛（ほう素化合物）〔PRTR・1種〕……………0～2%	性状： 類白色粉末45μm以下 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

●胞子の侵入、発芽を阻止する予防効果と菌糸生育阻止作用により病斑の拡大進展を阻止する治療効果を併せ持つ。

●病斑上における胞子形成も阻止し二次感染を抑制して、残効性もある。

●果樹、野菜などの各種病害に有効であるが、特にりんご斑点落葉病、なし黒斑病、トマト輪紋病などのアルタナリア（*Alternaria*）属菌による病害に対して高い防除効果を持つ。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

●耐性菌を回避し、本剤を有効利用するために、次の点に留意する。

○単用による連続使用はさけ、年間使用回数もりんご2回、なし3回程度とする。

○使用に当っては、本剤とキャブタンあるいは有機銅などと混用し、他の有機殺菌剤とローテーションを組みながら使用する。

〈りんご〉

●斑点落葉病の防除に重点をおき、本病の急増期、発病盛期などの重点防除時期を中心に使用する。

〈なし〉

●黒斑病の防除に重点をおき、小袋かけ前、梅雨期などの重点防除時期を中心に使用するが、収穫期にも使用できる。

〈野菜〉

●灰色かび病、うどんこ病、葉かび病、黒星病など各種主要病害に有効。べと病、疫病などには防除効果が認められないのでこれらの病害が発生する場合は他剤との組み合わせが必要。

●果樹同様、過度の連用はさける。

【薬効・薬害等の注意】……………

●強アルカリ性薬剤との混用はさける。

●耐性菌の出現を防止するため過度の連用はさけ、他剤との輪番で使用する。

●レタスの菌核病に対しては、効果がやや劣る場合があるので、多発が予想される場合は効果の高い他剤と輪番使用する。

●ネギアザミウマに対しては、発生が多くなってからの使用では効果が劣るので、発生状況をよく確認のうえ、使用する。なお、展着剤を加用することが望ましい。

●適用作物（ぶどう、きゅうり、メロン、トマト、いちご）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【適用と使用方法】

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	ポリオキシシンを含む 農薬の総使用回数
りんご	斑点落葉病 うどんこ病 褐斑病 赤衣病	1000 倍	200～ 700 ℓ	3 日前まで	3 回以内	散布	5 回以内 (散布は 3 回以内)
なし	黒斑病 うどんこ病 褐色斑点病			7 日前まで	5 回以内		(イミノクタジン酢酸 塩・ポリオキシシン水和 剤は 3 回以内)
ぶどう	灰色かび病	60 日前まで					
みかん	赤衣病	14 日前まで		5 回以内			
メロン	うどんこ病	1000 倍	100～ 300 ℓ	前日まで	2 回以内		5 回以内 (塗布は 1 回以内)
きゅうり							
いちご	灰色かび病 うどんこ病			収穫開始 14 日前まで	3 回以内		3 回以内
トマト	灰色かび病 葉かび病			前日まで			
レタス	菌核病	500 倍		14 日前まで	5 回以内		5 回以内
にんじん	黒葉枯病			7 日前まで			
薬用にんじん※	斑点病	1000 倍		30 日前まで	20 回以内 (1 年間に 5 回以内)		20 回以内 (1 年間に 5 回以内)
ねぎ	黒斑病			14 日前まで	3 回以内		3 回以内
	ネギアザミウマ						
たまねぎ	灰色かび病		500～ 750 倍	3 日前まで	5 回以内		5 回以内
	小菌核病 ネギアザミウマ	500 倍					
からまつ	先枯病	500～	300～ 700 ℓ	—	8 回以内		8 回以内
たばこ※	赤星病 灰色かび病	1000 倍	100～ 180 ℓ	5 日前まで	2 回以内		2 回以内

※：同一薬剤名（会社名を除き）であっても登録内容が異なる箇所。使用時には必ずラベルで登録内容を確認すること。